

訂正箇所：4. 防災関連事項の時間の記述を18時から06時に修正。

1. 実況上の着目点

① 500hPa -30℃以下の寒気を伴った5160～5400mのトラフが日本海～朝鮮半島付近にあって南東進。日本付近は強い冬型の気圧配置となっている。日本海～北陸地方に日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)がのびており、西～北日本には850hPa -12℃以下の強い下層寒気が流入している。JPCZや上空寒気の影響により、大気の状態が非常に不安定となっており、西～東日本海側の山沿いを中心に3時間10～20cmの降雪を観測、雷を検知。

② 強い冬型の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなっており、

西～北日本では強い風や非常に強い風が吹いており、波が高く大しけとなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①のJPCZは10日朝にかけて南下し、不明瞭となる。日本付近は、10日は強い冬型の気圧配置が続き、11日は次第に緩む。1項①のトラフの通過に伴い、10日は、西～東日本に700hPa -21℃以下の強い寒気が流入する。また、オホーツク海にある低気圧が、10日夜にかけて北日本を南下する。上空寒気や強い冬型の気圧配置、低気圧の影響により、大気の状態が非常に不安定となり、引き続き大雪となる。西～北日本では10日は、大雪による交通障害に警戒し、11日午前中にかけて、大雪や着雪、なだれに注意。また、西～北日本では11日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

② 日本付近は、強い冬型の気圧配置や2項①の低気圧の影響で、気圧の傾きが大きくなり、全国的に雪を伴った強い風や非常に強い風が吹いて、波が高くなり日本海側では大しけとなる所がある。10日は、北日本では、猛ふぶきや吹きだまりによる交通障害、暴風に警戒し、西～東日本日本海側では暴風雪や高波に警戒。全国的に11日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

③ 12日は、500hPa -30℃以下の寒気を伴った5400m付近のトラフが黄海～西日本へ進み、日本海と日本の南に低気圧が発生し、大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島および西～東日本では、12日は落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：東北・北陸・近畿・中国60、関東甲信・東海50、北海道30、四国15、九州北部10cm。③ 波浪(明日まで)：東北・北陸・近畿6、北海道・伊豆諸島・近畿・中国・沖縄5、その他広い範囲で4～3m。④ 高潮(明日まで)：東～北日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雪と暴風雪及び高波に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。